



金子 ^{めい}愛依さん

●山形小学校 6年
夢を叶えるために

わたしの将来の夢は、助産師になることです。

あるニュース番組で、産婦人科についての特集がありました。そこでお腹の中にいる赤ちゃんの命を守るために、必死に働く助産師の方々を見て、わたしもいつかこの仕事に就きたいと思うようになりました。

現在の日本は国際社会です。今からたくさん英語を学び、将来は、世界中の妊婦さんの力になりたいです。



佐野ブランドキャラクター
さのまる

市長からの
メッセージ



今年はや暖冬により、花の便りが例年より早く届いておりますが、皆さんいかがお過ごしでしょうか。

第57回県都市対抗駅伝競走大会において、佐野Aチームが総合初優勝を飾りました。往路復路とも優勝の完全優勝であり、Bチームも9位に入るほか、小学生駅伝大会でも本市チームが3位になるなど、スポーツ立市を推進する本市にとって、とても喜ばしい結果となりました。選手、関係者の皆さん大変お疲れ様でした。

先月11日には、国民的作家である司馬遼太郎さんの没後20年の記念祭「菜の花忌」が植野地区公民館で行われました。司馬さんは昭和20年、戦車中隊の少尉として植野国民学校（現在の植野小学校）に駐屯し敗戦を迎えており、司馬さんが好んだ佐野の街並みを描写した作品の文学碑が植野地区公民館の敷地内に建立されています。今後も司馬さんと本市とのつながりを広く発信したいと思います。

今日5日・6日は、佐野市文化会館において「全国学びとまちづくりフォーラム」が開催されます。今年で4回目になりますが、全国からまちづくり活動を行う団体が集まり、活動の実践報告や情報交換が行われます。会場内には飲食や参加団体の特産品展示コーナーもありますので気軽に立ち寄りください。

今月の11日で東日本大震災から5年になります。本市では被災した本庁舎の建て替えが完了し、防災の拠点となる新庁舎が完成しましたが、大切なのはやはり皆さん一人ひとりの心構えになります。震災後5年という節目に、改めて備蓄品や避難場所の確認など普段からの備えを欠かさぬようお願いいたします。

日々、暖かくなりますが、市民の皆さんには、風邪などひかないようにご自愛ください。

岡部 正英

今回の表紙 「栃木県都市町対抗駅伝競走大会」(栃木県庁前) 1月31日(日)



ふるさとの誇りをかけて栃木県内の各市町などから全31チームが参加して行われた同大会において、佐野市が初めてとなる総合優勝を果たしました。

今回の優勝は那須塩原市の大会7連覇を阻止するもので、往路・復路それぞれ優勝の完全優勝です。(本紙6ページに関連記事)

後藤 理都子さん

(久保町)



キラリ★話題の「ひと」

○プロフィール
静岡県浜松市出身。佐野市在住9年。
読み合いサークル「わかばの頃～Fresh Leaves」代表を務める。他に、日本ボーイスカウト栃木県連盟佐野第2団副長、佐野市楽習講師、佐野市国際交流会員、日中友好協会会員など、精力的に活動されている。

「親子のふれあいを考えよう！」
みなさん、最後に絵本を目にしたのはいつですか？
今回ご紹介するのは、絵本を通じて親子のふれあいを大切にしてほしいと熱い気持ちを持つ、読み合いサークル「わかばの頃～Fresh Leaves」代表の後藤理都子さんです。

後藤さんが佐野市にきたのは9年前。以前より子育て支援活動、絵本の読み聞かせ活動をしていた経験から、たくさんの若いお母さんたちとも交流がありました。そんな中、お母さんたちから耳にするのは「どうやって子どもたちと関わったらいいのかわからない」という切実な声でした。そんな時に後藤さんは「絵本が一冊あれば親子で幸せな時間が過ごせます」と伝えていきます。

その後、平成27年11月、伊藤忠記念財団からの助成金を活用し、久保町の自宅に「絵本の館 わかば文庫」をオープンしました。ここでは「親子はもちろんのこと、子どもからお年寄りまで多くの方が気軽に立ち寄れる居場所を提供していきたい」という想いのもと、毎月第3土曜日午前10時から午後5時まで無料で開放し、絵本の読み聞かせ会や紙芝居の



市民記者
飯田 瞬

上演により、人との繋がりを深めようと活動しています。後藤さんは「現在、このような活動を行えるのも、9年前に誰一人と知らず佐野市に足を踏み入れた中、地域の皆さんとの素晴らしい出逢いがあり、そして多くの人に支えられたおかげです」と常に感謝の気持ちを忘れません。

最近では親子にまつわる悲しい出来事が後を絶ちません。後藤さんは心が痛む中、絵本を通じて自分が手を差し伸べてあげることが、少しでも悲しい出来事が減って欲しいと願っています。

今後の決意として「これからも佐野市の発展のため、微力ながら社会貢献をしていきたいです。そして、絵本の素晴らしさを多くの親子に伝え、親と子、また人と人との繋がりの大切さを絵本から学んで欲しいと願っています。この機会に皆さんぜひ、絵本を手にとって見てください」と、優しくも熱く話してくれました。

佐野弁 ばんざい

ブシヨは不潔でだらしないこと

世の中には散髪もしなければひげも剃らない。仕事もろくにせず、だらしない日々を費やしているような人がいます。このような人を無精者、あるいはなまけ者などといいます。また、このように不潔でだらしない人を方言で、ブシヨッタネー人、あるいはブシヨッタナイ人などといいます。ブシヨッタネー(ナイ)は不潔である、だらしないという意味です。

「汚れたテネゲ(てぬぐい)で足を拭いたり、顔を拭いたりして…。まあこの子つたら、ブシヨッタネーつたらアリヤーシネー」

ブシヨッタネー(ナイ)は、無精という語に、汚いの一部が組み合わさり、不潔の意を強めた方言です。不潔な人とかだらしない人(こと)という意味の方言にはブシヨッタレがあります。

「あの人がセフロ(風呂)にヘーッタ(入った)コター(こと)は、めったにネーンだつてガネ。ブシヨッタレつて言われたつてシャーナカンベ(仕方がないでしょう)」

ブシヨッタレは不潔だという意のブシヨ(無精)に、「たれ(垂)」という語が付いたものです。タレはブシヨを強めるはたらきをします。

不潔もはなはだしい人をブシヨッタカリといいます。今では高齢者ことばとなつてしまいました。タカリはものぐさ、だらしないさのかたまり(極端なものぐさ、だらしないさの意という意味です。 (市民記者 森下喜一)

2月号「話題のひと」の訂正

広報さの2月号で掲載した方の記事の中で誤った表記がありました。正しくは「佐野市まちづくり条例の会」です。訂正させていただきます。